

グラフィックシラバスの共創を通じた 教員と学生の授業改善



豊浦 正広[†] 根岸 千悠[‡] 日永 龍彦[†] 森澤 正之[†] 埜 雅典[†]
(教育改善プロジェクト) 安藤 駿佑 高津 悠斗 田代 海渡 平島 敬規 村田 壮哉 両角 遼平
[†]山梨大学大学教育センター [‡]大阪大学全学教育推進機構

他にも、期末期の夜間教室開放、アンケート調査、全国的な学生FDイベントへの参加・発表・情報収集など
Twitter @uy_eip

背景・目的

「シラバスが授業内容を表せていないのでは？」－ 学生FD(教育改善プロジェクト)参加者が指摘
～ 教育の実質化, ディプロマポリシー達成の保証, 教育内容の保証のために妨げになっている

	教授法	授業内容	修正要望	授業実施者:
授業実施者	△	◎	△	教授法の専門家ではなく, 記述は容易でない
教授法の専門家	◎	×	×	教授法の専門家:
学生	×	△	◎	教授内容の専門家ではなく, 記述修正は容易ではない
				学生:
				教授法と教授内容の専門家ではないが, 記述に不足を感じる

単に議論の場を持つだけでは不十分?

「多くの学生はシラバスを注意深く、もしくは、完璧に読まない」(Nilson 2007)

すでに体裁が整っているシラバスの改善では、教員と学生で主従関係が成り立ち、意見が出しにくい?



ポスターはこちらからダウンロードいただけます

提案手法

グラフィックシラバス(*)を作成して教授内容をゼロから見直す過程で、教員・学生が対等に議論する機会を得る
(* 授業の重要概念間の系統性・関係性を図示化したもの)

実施方法



学生による作成試行 (学生6名と教員2名が参加)

1. 受講済みの授業を1つ選び、提供されているシラバスと授業資料などを用意する
2. グラフィックシラバスの概要(佐藤2010, 15頁)を読み合わせる(30分)
3. シラバスと授業資料などから重要と考えるキーワードを付箋に書き出して、大きい紙の上に配置する(30分)
4. 相互に作成内容を確認する(10分)
5. 付箋を並べた上で枠や文字を加えて、グラフィックシラバスの下書きを作成する(30分)
6. 相互に作成内容を確認する(10分)
7. スライド上に電子的に書き起こす



教員と学生のFDワークショップ (教員17名と学生4名が参加)

1. 会場入り口には学生による事前試行例を掲示する
(グラフィックシラバスのイメージが湧きやすくなるを狙った)
2. グラフィックシラバス作成の対象となる文章によるシラバスを持参してもらう
(学生についても、未作成の授業のシラバスを持参してもらう)
3. 教員と学生が混成となる4グループに分ける
4. グラフィックシラバス作成の目的と具体的手順を説明する(25分)
5. ワークショップ(90分, 個人—グループ—個人—グループ—振り返り)で作成してもらう
～ ほとんどの参加者が時間内にグラフィックシラバスの下書きまでを完成させた

アンケートで寄せられた感想 (抜粋)

- ・ 学生と教員がともに参加するのは、視点が変わり良かった。
- ・ 学生と教員間での授業構造, カリキュラムの構造の捉え方が異なるので、もっと共有する必要があると感じた。
- ・ 学生目線, 学習者目線, また教育担当にとっても知識の構造化による有効性を感じました。
- ・ 他の人の考え方を知ることができた。大学教員同士で話し合う機会はそう多くないので。

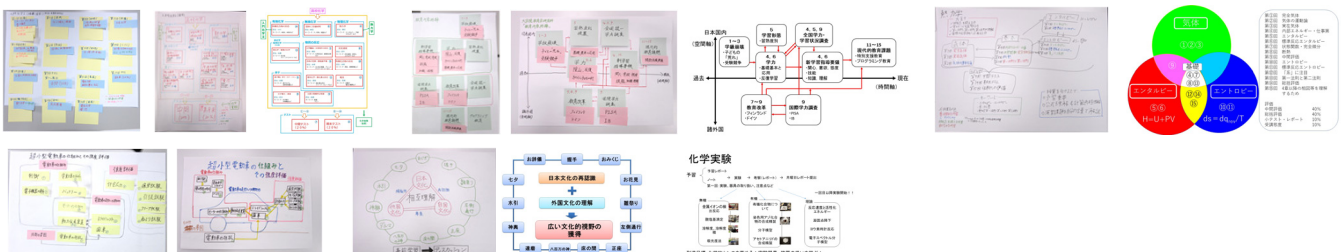
学生からの新鮮な視点からの意見が交わされ、好意的に受け入れられたことが読み取れる

まとめと今後の課題

アンケートの回答から、教員および学生から授業改善が進められたという好意的な意見が受けられた

今後の課題: 実際の授業でのグラフィックシラバスの活用 (オンラインシラバスへの画像貼り付け対応なども含めて)

参考: 学生によるグラフィックシラバス作成例



コメントや感想などございましたらここに貼り付けてください